

35 農林水産資源を活用した新需要創出プロジェクト

【924（848）百万円】

対策のポイント

農林水産物が有する機能性成分の有効性や効果的な摂取条件等を科学的に明らかにするとともに、生産現場で簡易に評価できる技術等を開発します。

<背景／課題>

- ・今後、少子高齢化の一層の進行が見込まれる中、国内の農業・食料関連産業の市場規模の維持・拡大を図るためには、農林水産物の機能性成分が有する疾病予防機能などを活用し、新たな需要を開拓していくことが重要となっています。
- ・このためには、農林水産物が有する機能性成分の有効性やそれらを含む農林水産物の個人に適した効果的な摂取条件等を科学的に明らかにするとともに、機能性成分の含有量が一定ではない農産物を生産現場で簡易に評価できる技術開発等が必要です。

政策目標

機能性農林水産物等を核とした新たな需要を創出
(平成34年度までに6,000億円規模)

<主な内容>

1. 農林水産物の機能性の解析評価技術の開発

農林水産物に含まれる機能性成分について、ヒトレベルでの生体調節機能の解析等により、科学的エビデンスを獲得します。さらに、個人に適した摂取条件を特定する手法の開発及び普及するためのモデル体制の構築等を実施します。

2. 医薬品作物、医療用素材等の開発

スギ花粉症治療薬となるコメ、カイコや動物由来の原料を用いた医療用素材等についてヒトや動物での安全性・有効性の評価試験等を実施します。

3. 国産農産物の潜在的品質の評価技術の開発

農産物とその加工品の多様な品質（機能性、食味、加工特性など）について、従来では複数の分析法によって得ていた各種情報を、光学的手法等によって一括で取得し、生産現場で迅速に推測する新しい農産物評価法を開発します。

補助率：定額
事業実施主体：民間団体等

お問い合わせ先：

- 1の事業 農林水産技術会議事務局研究統括官（食料戦略、除染）
（03-3502-2549（直））
2、3の事業 農林水産技術会議事務局研究開発官（食の安全、基礎・基盤）
（03-3502-7430（直））

農林水産資源を活用した新需要創出プロジェクト

これまでの成果

- タマネギ(ケルセチン)
- 生活習慣病予防・軽減
- 認知症改善
- 茶(エピガロカテキン、ストロクチニン類)
- 抗糖尿病・抗肥満作用
- 抗酸化作用



農林水産物のもつ機能性成分の有効性に関する科学的エビデンスの獲得

現状の課題

広く国民に農林水産物のもつ機能性を理解し、利用してもらうためには、

- 機能性成分の一般的な有効性だけでなく、個人の年齢・性別・健康状況等に応じた摂取条件の提示
- 生産現場で農林水産物のもつ機能性等の品質を簡易に評価する技術が不可欠

研究内容

機能性成分の実用研究

- 統計的に十分な規模(1,000人規模)の疫学調査の実施
- 疫学調査結果に基づく、年齢・性別・健康状況等に応じた摂取条件の解明

個人毎の摂取条件の特定

機能性等の品質評価技術の開発

- 光学的手法等により成分情報全体を把握する技術の開発
- 成分情報から品質を推定する技術の開発

簡易的に品質評価

一体的なデータ提供

医師・管理栄養士が個人に合わせた適切な摂取条件を提示することが可能に

広く国民に普及し、健康の維持増進を食生活を通じて実現

機能性農林水産物等を核とした6,000億円規模の新たな需要を創出